

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径 No.191

2024 September

9月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

敷居が高い

不義理なことや面目のないことがあって、その人の家に行きにくいことをいいます。程度や難度が高いという意味で使うのは誤りです。

子どもの座席をどう決めるか

- 子どもたちは教室での自分の座席に強い関心をもっています。子どもの座席の位置は学級での生活や学習に大きな影響を及ぼします。
- 子どもたちの座席は、一人一人の身体面、生活や学習面、人間関係などに十分配慮して、学級担任の責任で決めるようにします。

座席のもつ意義は何か

大学の授業では、学生に座席を自由に決めさせている場合があります。すると、教室の後方の席が埋まって、前方が空白になってしまうこともあります。コンサートや演劇などでは前方の席のほうがよい席といわれ、料金も高くなっています。学生は「よい席」を避けて座る傾向があります。

教育センターの研修会の講師を努めた先生から聞いた話です。会場の前方に空席が多いと、話がしづらい。聞いている人は集中力に欠け、注意が散漫になる傾向があるというのです。参加者の座席はその空間の雰囲気醸しだし、その場の価値を高めるうえで重要な役割を果たしているようです。講師と参加者との一体感が深く関わっているからでしょう。たかが座席ですが、されど座席だといえます。

講義式の授業では、子どもの座席がそれほど問題になることはないかもしれませんが、子ども同士が、また子どもたちと教師が協働的な授業を展開するときには、子どもの座席が重要な意味をもっています。

子どもたちにとって、自分の席が教室のどのあたりになるのか。自分の隣に誰が座るのか、高い関心をもっています。

それだけに、子どもの座席を決めるときには、慎重な対応が求められます。

小学校では大学のように子どもたちに自由に座らせていないのはそのためでしょう。子どもの自主性を尊重するという名のもとに、座席を子どもたちに決めさせることは望ましいことではありません。学級担任が子どもたちの状況をよく観察して、教育的な配慮のもとに座席を決める必要があります。

座席決定に当たっての配慮事項

教室の「席替え」は子どもたちにとって大きなイベントです。子どもの身近な人間関係が変わり、教室の景色が一変するからです。

子どもの座席を決定する際には次の事項に配慮します。まず、身体面への配慮です。身長はもとより、視聴覚にハンデがある子どもは前方の席にするなど、特に配慮します。背の高い子どもはどうしても後ろのほうになりがちです。当該の子どもには理由を説明し納得させます。

また、それまでに座っていた座席の位置を考慮することも大切です。例えば教室の右側に席があった子どもは左のほうに移動させます。座席を左右に変えることは黒板に対する見方を固定させないためにも必要なことです。

次に、グループでの学習を考慮して座席を決めます。子どもの座席は、班の構成に影響を及ぼすこともあり、グループ学習と深く関わっています。例えばグループで話し合うとき、進行の上手な子どもがいるとスムーズに進めてくれます。まとめ役がいると、意見を短時間に集約してくれます。どのグループもできるだけ同質になるようにしたいものです。

さらに、子どもたちの人間関係を配慮することです。好きな子ども同士でグループを構成したり、座席を決めたりすることではありません。助け合い認め合いながら、互いに高め合っている学級集団にします。そのためには教師に日ごろから子どもの人間関係を把握する観察力が求められます。

子どもの座席は時間がたつと、徐々に習慣化していくようです。席替えをした翌日、無意識のうちに前日までの席に座ってしまう子どももいます。

教室の雰囲気を新しくしたり、人間関係を広げたりするために、座席は時期をみて、定期的に変えます。2か月ごと、学期ごとなどが考えられます。新しい座席の人間関係がつけられ、生活や学習の暗黙のルールが確立するまでには一定の時間がかかります。

子どもの座席を決めることは、学級経営上の教師の重要な仕事です。

9月 今月の記念日

3日 ホームランの日

昭和52年(1977年)のこの日、巨人の王貞治選手が後楽園球場で通算756号のホームランを打ち、アメリカのハンク・アーロンがもっていた世界記録を更新しました。

食育としての給食指導

わが国では、学校給食の時間を教師による重要な指導場面として位置づけています。世界には学校給食を実施していない国や地域もあります。エジプトやウクライナなどの国々から、日本の給食指導の様子を視察に来ているというニュースに接したことがあります。そもそも多くの国では、学校での昼食の時間を子どもを教育する重要な場として位置づけていないようです。

学習指導要領（特別活動）には、給食の時間を中心に、健康によい食事のとり方など望ましい食習慣の形成を図ることや、食事を通じて人間関係をよりよくすることが示されています。ここには、食習慣の形成と人間関係の改善を図ることが「学級活動」の指導事項として示されていますので、給食指導を学級経営に関わる課題として取り上げました。

給食の時間は単に食事をするだけではありません。学校給食を生きた教材として活用し、食育を推進する時間でもあります。文部科学省の資料によると、食育の目標は、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化といった6つの観点から構成されています。

食育は学校教育全般をとおして推進する課題とされています。社会科や理科、家庭科、体育科（保健領域）、道徳科、特別活動（学級活動）などとも関連づけ、給食の時間を食の実践場面として位置づけて指導します。

子どもたちが給食を楽しく食べることができるよう一人一人に配慮した指導を行います。特に食物アレルギーを有する子どもや肥満傾向にある子どもには個別的な対応や指導が必要です。

教師の処遇改善

質の高い教師を確保するための環境整備について検討してきた中央教育審議会の特別部会は、本年5月に「審議のまとめ」を公表しました。そこでは教師の処遇改善について、今後のあり方を提言しています。

昭和46年（1971年）に教育職員の給与等に関する特別措置法が、昭和49年（1974年）に教育職員の人材確保に関する特別措置法が制定されました。また、昭和55年に一般行政職に比べて約7%の優遇分が確保されました。これらの措置により、教師の処遇はかなり改善されましたが、その後、相対的な優遇分が低下

し、現在ではわずかになっています。

「審議のまとめ」はこうした歴史的な経緯を踏まえ、また教師の自主的・自律的な判断に基づく業務と、管理職の指揮命令に基づく業務が日常的に渾然一体になっているという教職の特殊性から、一般行政職と同じような時間外の職務命令を前提にした勤務時間の管理は適さないとしています。すなわち、教職調整額を支給する仕組みには合理性があり、残業時間をもとに手当を支給するという考え方はとらないという考えが根底にあります。

以上のことから、質の高い教師を確保するためには、一般行政職と比した優遇分の水準以上を確保し、教職調整額の率を少なくとも10%以上にする必要があると提言しています。



先人の残した言葉 11 ホワイトヘッド

あまり多くのことを教えることなかれ。
しかし、教えるべきことは徹底的に教えるべし。

この言葉はイギリスの哲学者で、数学者であったアルフレッド・ノース・ホワイトヘッドが、1927年に出版した『教育の目的』のなかで述べられています。この言葉は平成8年（1996年）に出された中央教育審議会の第一次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」において引用されました。この答申は平成10年に告示された学習指導要領の基本的な改訂の方針を示したものでした。

当時は、学校週5日制へ完全に移行することが最大の課題になっていました。登校日や授業時数が縮減されるなかで、学習指導要領において教育内容を大幅に厳選することが使命になっていました。詰め込み授業になったり、落ちこぼれる子どもがさらに増えたりす

ることが危惧されたからです。この言葉はこれらの課題を踏まえて、学校教育の新しい役割を示すものとして紹介されたフレーズです。

ホワイトヘッドがこの言葉を著したのは20世紀の初めでした。当時のイギリスの学校教育の実態を踏まえて、「数多くの教科に分けて、あれこれの事柄を教えると、子どもは相互に関連のない知識を受け身の姿勢で受け取るだけになり、生きる力が啓発される余地はまったくない。子どもの教育で扱われる知識や観念は、少数の重要なものに限るべき」と指摘しています。

わが国の学校教育は教科や教育内容が増加する傾向にあります。ホワイトヘッドの言葉を改めて噛みしめてみる必要がありそうです。

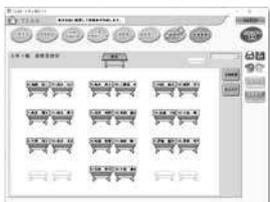
INFORMATION

座席表作成は **てんまる** 2024で!!

マウス操作で簡単に座席表が作れます!



「てんまる2024」は「ぶんけいテスト」ご採用の先生がお使いいただけます。



「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂ホームページからお読みいただけます。

お知り合いの先生にもお勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

編集後記

毎年夏と冬に、WFP(国連世界食糧計画)の「学校給食プログラム」に些少ですが個人的に寄付を行っています。貧困国においては、学校給食は食育のみならず「親が子どもを学校に通わせる動機づけになる」と聞いたからです。世界中の子どもが教育を受けられ、飢餓がなくなる日が早く来ることを願っています。(H記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2024年9月1日